

次世代トップ養成へ塾

【みやまき】高鍋町の宮崎県立農業高等学校で30日、実践力を備えた農業者や技術者を育成する「みやまき次世代農業トップランナー養成塾」が開講した。河野俊嗣知事を塾長に、県内5市4町から20人(1人は聴講生)が参加。2017年2月まで9回にわたって経営理念や戦略、事業計画など学び「守る農業から攻める農業」へ転換を目指す。



農業トップランナーの塾生としての抱負を語る受講者(30日、宮崎県高鍋町)

宮崎県「攻める農業」経営学ぶ

同塾は、15年度から宮崎県が、学校法人やアグリコネクト会社へ委託し「みやまき次世代農業者養成塾コンソーシアム」を設け開講。県内在住者で、就農後おおむね5年以上で40歳くらいまでの若手農業者が対象。15年度は19人が修了している。

開講式では、受講生一人一人が決意を表明。串間市の(株)しまあおいファームで、3年前から食用カンショなどの生産・加工販売を展開している下出淳平さん(29)は「2年続けての受講となった。経営や販売手法など学び、カンショで世界のトップを目指したい」と意気込んだ。

初日は、河野塾長が「宮崎の新たな挑戦」として、50年前は全国30位だった農業産出額が、14年度には9位になった食料供給基地としての位置付けなどを紹介。「みや

まきブランドとして『約束』『信頼』から『安全』『安心』へと変化に挑み、『健康』という付加価値を県産農畜産物で高め、守りから攻めへのギアチェンジで農産物の商品化や輸出拡大に取り組み」と励ました。